

## 事業実績報告書

様式 2  
(2018年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-70	講座名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び、働く
記載日	2019/2/10	団体名・企業名	NPO法人「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」

### 〈講座全体の概要〉(300字程度)

主として木曽川下流域市民に、座学や間伐・枝打ち・除伐・出荷などの森林整備活動、および、炭焼きなどの山仕事体験を通して、水源地域が置かれた困難な状況を頭と体で体感してもらい、下流から上流を見る「まなざし」を獲得してもらい、さらには上流域支援ボランティア活動者となるための契機としてもらうという狙いで実施。昨年度と同様に本年度も家族連れ参加が多く、子どもたちへの環境教育としての里山林探検、灌木や竹林の除伐のこぎり体験、薪割り体験、たき火のおこし方などが好評だった。また餅つきは大人にも大好評だった。参加者総数66名は、昨年度の50名を上回った。

### 〈写真添付スペース(1~2点)〉



12月は、焼いた炭でサンマを焼いて食べた。箸もトレーも、除伐した竹で作った。

1月は古民家をお借りしての餅つき。今年は子供用の杵も準備した。

### 〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

トラストの森はわずかに3haにすぎないが、自由に活動できる10ha以上のヒノキ人工林が隣接していて、間伐・枝打ち作業、炭焼きなどを行ってきた。毎月2日ずつ、すでに20年以上も活動してきた。この森の楽しさ、森を通じて名古屋市民の命の水である木曽川上流域のことを知ってもらうために、環境大学講座の場をお借りしてきた。この講座は土曜日に設定しているが、日曜日のトラストの活動は御嵩町有林での本格的な間伐作業と、パルプ材としての出荷である。この活動に参加するようになった受講者が出て、とてもうれしい。子どもの参加が多いので安全面に気を使うが、彼らの存在そのものが大人を元気にさせてくれる。彼等も実に生き生きと楽しそうであった。トラストの森を周回する散策道は40度超の急斜面をよじ登るが、しり込みした子はいなかった。

### 〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

- ・ 経験にもとづく豊かな知識を現地で教えていただくことが出来て、とてもためになった(20代男性)。
- ・ 山仕事を少しかじっただけであったが、初めての体験で新鮮であった(40代男性)。
- ・ 非日常的な体験が出来て、とても楽しかった(50代女性)
- ・ 火おこしや薪割りなど色々な自然体験が出来て楽しかった(小5男子) 餅つきが楽しかった(子ども多数)
- ・ 森林のことを学べる良い機会だった。今度は日曜日の本格的な伐採作業を手伝いたい。(40代女性)